

文京学院大学保健医療技術学部 臨床検査学科 生化学研究室

芝 紀代子*

I. 大学・学科の紹介

文京学院大学には、本郷キャンパス(東京都文京区)とふじみ野キャンパス(埼玉県ふじみ野市)と、2つのキャンパスがあります。外国語学部、経営学部、人間学部と3つの文系学部があるところに、2006年に初めて理系の保健医療技術学部が理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科の3学科で開講しました。臨床検査学科は49年間続いた医学技術専門学校の伝統と実績がありますので新しい学科といえ気分的には楽なスタートでした。授業は1年次にはふじみ野キャンパス、2

年次以降は本郷キャンパスで行います。

II. カリキュラムの特長

附属病院を持たない大学ですので1年次後期に埼玉医科大学総合医療センターを見学させていただき、検査室の概要を実感して臨床検査技師の仕事についての認識を深めます。見学後の感想文を読みますとかなり好評です。

チーム医療には欠かせないコミュニケーション能力を育むために医療面接を2回行っています。2年次前期に医療面接Ⅰを行います。これは、東京SP研究会の方々と初対面での会話を通して双



卒論生に囲まれて嬉しいひととき

* kshiba@hst.u-bunkyo.ac.jp

方向性コミュニケーションの重要性を学びます。3 年次後期の病院実習に出る前に医療面接Ⅱを行い、模擬患者さんとの面接で患者さんとの適切な対応を学びます。接遇については力を入れております。

専門実習は2 年次から週 1 回の形態で始まりませんが、3 年次前期は集中実習として同じ科目を数日間連続して行い、各科目実習がきめ細かく行えるように工夫しております。

病院実習は3 年次後期に週 4 日(火曜日～金曜日)で 450 時間行います。月曜日は大学で授業があります。2～6 人のグループで東京、埼玉、神奈川、千葉にあります 30 の病院にお願いして実習をさせていただいております。実習終了後には、それぞれの病院でどのようなことを学んできたか皆で知識を共有するために報告会を行っています。

4 年次前期は卒業研究です。生化学、血液、免疫、病理、微生物、生理の 6 研究部門に分かれております。学生は興味のある分野テーマを選びますが、定員がオーバーした時は学生間で調整をしてもらいます。結果が目に見えるのが理解しやすいらしく、病理、微生物に人気が集まります。1 人 1 テーマを原則に研究を行い、9 月に学生主導型で口頭研究発表会を行います。卒業研究を各自 A4 用紙 4 枚にまとめ卒業研究集録を作成します。

国家試験対策にも力を入れ、医歯薬出版の 4 回の模試、関西模試 2 回、自主模試 3～4 回と徹底的に行っていますが、学生はのんびりしており教員の方がドキドキ、ハラハラしています。

III. 研究室紹介

今年度は初めての卒業研究で、生化学研究室には 26 名の学生が配属されました。全員を収容するには研究室が狭いのと、スタッフが少ないことから成績の良い 13 名は外部施設に研究をお願いしました。依頼先は湯浅教授(東医歯大大学院医歯学研究科)、下門教授(東医歯大医学部附属病院)、三林教授(東医歯大生体材料工学研究所)、村田教授(慶応義塾大学病院検査部)、鈴木教授(日本医科大学薬理学講座)、芝崎教授(日本医科

大学生理学講座)です。学内では教授(芝)、准教授(下村)、講師(金森)、助手(川上)、研究員(久保田・中山)の計 6 名で学生 13 名を指導しました。

学内テーマは、1)尿中アルブミンの多様性と臨床的意義づけ、2)酸化傷害タンパクとしての尿中アルブミンの解析、3)尿中タムムコタンパク(THP)の多様性の解析、4)尿中 α_1 -アンチトリプシンの多様性の解析、5)尿タンパク濃度陰性時の尿タンパク分画による病態解析、6) α_1 -酸性糖タンパク及び α_1 -アンチキモトリプシン糖鎖構造変化を基にした迅速診断のための炎症マーカーの開発、7)術前術後患者の α_1 -酸性糖タンパク及び α_1 -アンチキモトリプシンの糖鎖分析法の開発、8)唾液中のストレスマーカー、9)尿濁度測定による尿路結石形成の早期発見、10)尿路結石中に含まれるタンパク成分分析、11)尿路結石患者の尿中成分分析、12)尿中レチノール結合タンパク 4 の ELISA 測定法の確立、13)尿中レチノール結合タンパクの多様性です。学生ひとりひとりのテーマが異なりますので、基礎的実験法を習得してもらうまではてんでこ舞いでした。英文の関連文献を読ませるために週に 1 度の輪読会を行い、論文に書かれていることを理解して、説明することの難しさを勉強させました。また技術面では、SDS-ポリアクリルアミドゲル作成、ブロッティング、ELISA 法、セルロースアセテート膜電気泳動法、銀染色法など分析化学の基礎を身に着けたことは学生にとりまして大きな収穫であったようです。

内部卒研 13 名のうち 9 名が第 4 回日本臨床検査学教育学会学術大会(東京)、1 名が第 33 回埼玉県医学検査学会(大宮)で口頭発表しました。学会で発表できたことは、学生達の自信につながり大きな成果があったものと思っています。

IV. 研究室の将来

本学部に 2010 年 4 月より保健医療科学研究科が設置されます。1 学年定員 20 名の本研究科は、理学療法・作業療法・臨床検査というユニークな組み合わせの分野を融合して学べる特長がありま

す。自分の専門がどの分野であっても、他分野から得られる情報などを確実に理解しなくてはなりません。理学療法・作業療法・臨床検査という広い分野の高度な専門的技術を学び、保健医療分野を科学的にとらえて学術的・理論的に研究していくことで、そのニーズに応えることができ、さら

にはチーム医療体制の現場において、リーダーとしても対応できる人材の育成が可能であると思っています。

本研究室で卒業研究をした学生数人が、卒業研究で興味を持ったため大学院生になってくれます。更なる研究ができることは嬉しい限りです。